

ちょっと待って!

## 住宅地などでの農薬散布



～使うときにはご近所の方へのご配慮を!～



私たちの身の回りには、5万種を超える化学物質が製品や食品などに含まれて流通しているといわれており、環境汚染や健康への影響が懸念されています。除草剤、殺虫剤、殺菌剤をはじめとする農薬、建材や洗剤、芳香剤、防虫剤などに含まれる化学物質…。

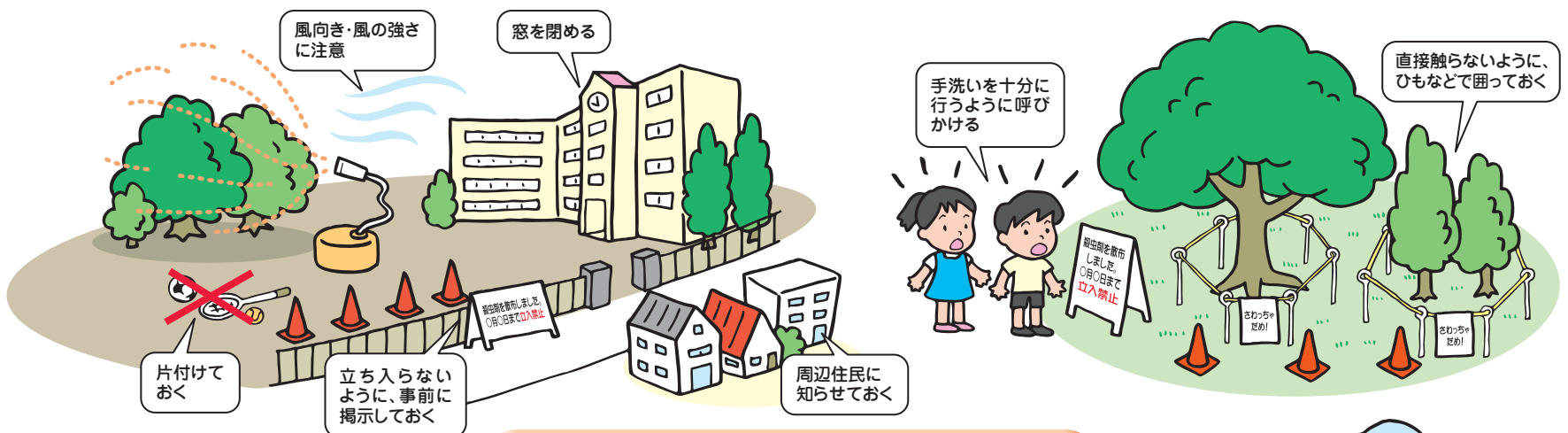
とりわけ、日常生活でのガーデニングや家庭菜園など、あなたが散布しようとしている除草剤や殺虫剤は本当に必要ですか? 散布することによって、周囲の人の健康に影響を及ぼすかもしれません。環境のこと、同じ地域に住んでいる人々のことを、少し考えてみましょう。

## 住宅地などでの農薬散布には十分な配慮を

一般の人々には影響のない濃度であっても、ぜんそくの人や化学物質過敏症の人、あるいは化学物質に対する感受性の高い子どもや妊婦の人には影響を与える事例が多く聞かれるようになっていきます。

こうしたことを防ぐために農薬の使用は極力控えるとともに、やむをえず使用する場合には、周辺環境に十分配慮して健康被害の防止に努めてください。

**私たち一人ひとりのちょっとした配慮が、こうした被害の防止につながります。**



## 捕殺に努め農薬使用は最小限に

- 近年、農薬散布を原因とする健康被害の訴えが増えています。そこで、市街地などでの病害虫防除に当たっては、**定期的な農薬散布を改め、せん定や捕殺など環境への負荷が少ない方法に切り替えましょう。除草についても、早期の手抜き、あるいは刈り取りに努めましょう。**
- やむをえず農薬を使用する場合は、**農薬の飛散で健康被害を及ぼすことがないよう、誘殺、塗布、樹幹注入など散布以外の方法を検討しましょう。**
- やむをえず散布する場合は、**最小限の区域に留め、農薬使用者は、事前に近隣住民に対して、散布日時を十分周知し、立て看板などで、散布区域に人が入らないようにしましょう。近くに学校や通学路がある場合は、学校や保護者に対し、事前周知を徹底し、子どもを健康被害から守りましょう。**



大人と子どもでは、当然大人の方が体が大きく、食物摂取量や肺活量も大きくなります。しかし意外と知られていませんが、体重1kgあたりにすると食物摂取量や呼吸量は逆に子どもの方が多くなります。

また、子どもは神経や免疫などの機能が発達途中であり、また子どもの行動面から見ても、周囲の土壌や樹木などに頻りに接触しそのまま手を口に運ぶこともよくあります。特に乳幼児期はこの傾向が強く見られます。これらのことから、子どもは大人よりも環境リスクが高く健康への影響が大きいことが心配されます。



大人でも、建材をはじめ芳香剤や防虫剤・殺虫剤や化粧品など身の回りのあらゆる化学物質に敏感に反応してしまう人がいます。これを化学物質過敏症と言い、頭痛や全身疲労などのさまざまな症状があらわれる病気だといわれています。一度、ある程度の量の化学物質にさらされると、それ以降は、ほんのわずかな量の物質にも敏感に反応するようになるといわれています。

まだまだ、発症などのメカニズムについて未解明な部分が多く、治療法も確立されていません。

**日ごろから正確な知識を身につけ、私たち一人ひとりが対策をとることにより、健康被害を未然に防ぎましょう。**